

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(3)-オ	保健衛生環境の向上	施策	④薬物乱用防止対策の強化
			施策の小項目名	○薬物乱用防止教育の推進
主な取組	薬物乱用防止教育の資質向上		対応する成果指標	普及啓発活動回数
施策の方向	・薬物乱用防止教育を推進する保健体育教諭、養護教諭、保健主事の資質向上を図るための研修会や専門家による薬物乱用防止教室の開催に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
若年者の薬物乱用問題は、社会的にも大きな問題となっていることから、薬物乱用防止教育を推進する保健体育教諭、養護教諭、保健主事の資質向上を図るための研修会や専門家による薬物乱用防止教室を開催する。	県	担当教諭の資質向上に向けた研修の実施		
		研修会開催回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	教育庁薬務生活衛生課	【 098-866-2055 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	-			予算事業名	-	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	R6年度		
県単等	直接実施			主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	直接実施	
令和5年度活動内容				令和6年度活動計画		
資質向上に向けた研修会や各学校において通年にわたり薬物乱用防止教室を実施した。(R5年度実施率小88.6%、中93.6%、県立学校100%)				保健体育科教諭、養護教諭等向けの研修会を開催し、指導力向上を図る。薬物乱用防止教育の徹底を通知し、薬物乱用防止教室の実施率向上を図る。		

活動指標名	研修会開催回数 (累計)		R5年度			進捗状況	活動概要
	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	1回	1回	1回	1回 (2回)	100.0%	順調	研修会実施において、大学や県警察本部から講師を招聘し、「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の効果的な進め方」等について講義を実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>令和5年度県立学校保健主事研修会では89名の参加、令和5年度地区別学校保健教育研修会では304名の参加があった。講師らの専門的知識や詳細な資料の提示、実践発表等により、薬物乱用防止教育の重要性を再認識し、取り組みの推進を図った。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
<p>○教科の授業だけでなく、教育活動全体を通じて、適切な意志決定及び行動選択等、自分の一生を大切にできる自己肯定感を高める取組が必要である。</p> <p>○警察職員、税関職員、学校薬剤師、学校医、民間関係団体等から講師を招聘し、職員向けの研修や児童生徒向けの薬物乱用防止教室を実施する等、関係機関・団体と連携した取組が必要である。</p> <p>○薬物乱用防止教室を学校保健計画へ確実に位置づけさせ、計画的に実施させる。</p>	<p>・令和5年度県立学校保健主事研修会では、県警察本部から講師を招聘し、「SNSに起因する薬物の概要」の講義を行い、県内の少年を取り巻く現状について理解を深めた。</p> <p>・令和5年度地区別学校保健教育研修会では、講師らの専門的知識や実践、詳細な資料の提示、ブレインストーミングによる参加者同士の交流や情報交換ができた。また、実践発表「飲酒・喫煙、薬物乱用等の防止教育の実践～思考ツールの活用を通して」では、より現場で活用できる指導方法を紹介し、その共有を行うことができた。</p> <p>・薬物乱用防止教室の実施率(令和5年度)は、小88.6%、中93.6%、県立学校100%であった。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>・本県若年者の大麻摘発者数は増加傾向にあり、予防教育が重要であるが、一過性の指導では効果が薄い。</p>
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>・大麻等の違法薬物について、SNSを通じて売買がなされるケースが多い。教職員や生徒が実態について認識を深めるとともに自分事として捉え、危険回避能力の育成、情報モラルの醸成が必要である。</p>
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>・「第6次薬物乱用防止5か年戦略」において、薬物乱用防止教室は「中学校及び高等学校においては年1回は開催する」と規定されているが、本県の実施率は100%(令和5年度91.6%)に至っていない。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑧ その他	<p>・教科の授業だけでなく、教育活動全体を通じて、適切な意志決定及び行動選択等、自分の一生を大切にできる自己肯定感を高める取組が必要である。</p>
② 連携の強化・改善	<p>・警察職員、税関職員、学校薬剤師、学校医、民間関係団体等から講師を招聘し、職員向けの研修や児童生徒向けの薬物乱用防止教室を実施する等、関係機関・団体と連携した取組が必要である。</p>
⑧ その他	<p>・薬物乱用防止教室を学校保健計画へ確実に位置づけさせ、計画的に実施させる。</p>